

立村130年という節目の令和元年度も今月限りで終わり、新たに令和2年度が始まります。

今年は梅や桜も早咲きで、愛でる時季もあっという間かもしれません。

桜といえば、新診療所に名古屋商科大学の栗本学長から頂いた記念の桜が2月29日に植樹されました。「栗本祐一先生記念東白川村健康長寿の郷」と共に、未来永劫花を咲かせ続けてほしいと願うばかりです。

先日、東白川中学校で『ふるさと学習発表会』が行なわれました。そこで感じた事ですが、私は村を出て行く子ども達に、東白川村を好きになり、いつか帰ってきて欲しいと思っています。たとえ東白川村を離れて暮らしていても、生まれ育った村のことを忘れずに“東白川村の応援団”になってほしいと願い、そういう「ふるさと教育」を望んでいます。

ふるさと学習がなぜ必要なのかと推考すると、日本の未来の事を考えた時、東京一極集中では日本の将来が立ち行かないことに社会が気付いたことからだと私は考えています。2月の本欄に書いた『都市なくして農村なし、農村なくして都市なし』の考えに通ずる考え方であると思っています。

東白川子ども達ほど「ふるさと」を意識して学習してくれている学校は無いと思っています。

次に「公共施設に関するアンケート」で感じたことです。

人口減少社会にあって、現在の施設の将来のあり方について御意見をいただいたアンケートですが、課題が山積みであることが分かってきました。特に、神土の「ふれあいサロン」と五加の交流サロン「ほほえみ」は、政策目的や活用方法が理解されていないということを強く感じました。今後、活用方法について地域の皆様と議論していきたいと思います。

さて、最近嬉しかった話題二題を挙げます。

まず、東白川中学校の緑化少年団が県の発表会で最優秀賞を受賞しました。東海代表に決まれば全国大会に出る事になります。

そして、2月で紹介した東京オリパラの選手村ビレッジプラザに東白川村の東濃ひのきが使われています。内覧会に出席し、東白川村の刻印が押された柱や板壁を見てとても誇らしく感じました。この木材はレガシーとして本村へ帰って来ます。どこにどの様に使おうか頭をひねっています。

3月は別れの季節。

卒業や就職でふるさとを旅立つ皆様に元気で頑張ってくださいとエールを贈ります。

令和2年3月

東白川村長 今井俊郎